

須賀川市議会議長
五十嵐 伸 様

陳情者：DAPPE（平和と平等を守る民主主義アクション）

代表 久保田 亮

住 所：

電話番号：

東京電力福島第一原子力発電所事故で発生した放射能汚染水（アルプス処理水）
の海洋放出に反対する意見書の提出を求める陳情について

【陳情趣旨】

国の小委員会は、福島第一原子力発電所から発生する放射能に汚染された水の処理方法について、大気か海洋への放出が現実的で、海洋放出が確実だとする報告書をまとめました。

国はコロナ災禍の中、公聴会を開催し、放出に反対や慎重な意見が相継ぎました。その出席者は、限られた団体や自治体首長など、一方的に定めた、いわゆる「関係者」であり、県民と相互に意見を交わし議論する場は持たれず、国民的議論や理解を得ないまま結論ありきで進められています。

福島県内では、この間、風評という名の実害に苦しむ中、安全性と信頼を回復するために、様々な努力が重ねられてきました。海洋や自然界への放出という選択は、これまでの努力を根底から覆し、更なる風評被害や分断をもたらし、復興を更に遅らせることになり、容認できません。

原発事故や放射能の影響から、暮らしや生業を失い、大きなストレスを抱え、自ら命を絶つ人もいました。汚染水を環境中に放出すれば、再びこのような悲劇を招く恐れがあり、社会的・心理的影響を軽視していると言わざるを得ません。

科学的視点では、タンク内の汚染水の約7割には、トリチウム以外の核種が含まれており、トリチウム水だから安全という説明はミスリードです。

福島第一原発の汚染水タンクの全量を海洋放出するには約30年～40年かかると言われています。トリチウムは研究段階では除去する技術が開発されていることから、当面は敷地内外で地上保管を継続し、世界の英知を集めて実用化させるために全力をあげるべきです。よって、拙速な海洋放出の決定に反対します。

次の項目の意見書を採択し、国の関係機関に提出するよう陳情します。

【陳情項目】

- 1 汚染水（アルプス処理水）について、透明性のある正しい情報公開を前提とした、大多数の国民からの合意がないまま海洋放出を行わないこと。
- 2 当面地方保管を継続し、その間に国が責任をもって世界の英知を結集し、トリチウムの分離や放射能低減など根本的解決を図り、住民も参加した双方向で議論・質疑ができる公聴会を開催すること。



東京電力福島第一原子力発電所事故で発生した
放射能汚染水（アルプス処理水）の海洋放出に反対する意見書(案)

国の小委員会は、福島第一原子力発電所から発生する放射能に汚染された水の処理方法について、大気か海洋への放出が現実的で、海洋放出が確実だとする報告書をまとめた。

国はコロナ災禍の中、公聴会を開催し、放出に反対や慎重な意見が相継いだ。その出席者は、限られた団体や自治体首長など、一方的に定めた、いわゆる「関係者」であり、県民と相互に意見を交わし議論する場は持たれず、国民的議論や理解を得ないまま結論ありきで進められている。

福島県内ではこの間、風評という名の実害に苦しむ中、安全性と信頼を回復するために様々な努力が重ねられてきた。海洋や自然界への放出という選択は、これまでの努力を根底から覆し、更なる風評被害や分断をもたらし、復興を更に遅らせることになり、容認できない。

原発事故や放射能の影響から、暮らしや生業を失い、大きなストレスを抱え、自ら命を絶つ人もいた。汚染水を環境中へ放出すれば、再びこのような悲劇を招く恐れがあり、社会的・心理的影響を軽視していると言わざるを得ない。

科学的視点では、タンク内の汚染水の約7割にはトリチウム以外の核種が含まれており、トリチウム水だから安全という説明はミスリードである。

福島第一原発の汚染水タンクの全量を海洋放出するには約30～40年かかると言われている。トリチウムは研究段階では除去する技術が開発されていることから、当面は敷地内外で地上保管を継続し、世界の英知を集めて実用化させるために全力をあげるべきである。

よって国におかれては、拙速に処理方法を決定することなく、下記の事項について実現されるよう強く要望する。

記

1. 汚染水（アルプス）処理水について、透明性のある正しい情報公開を前提とした、大多数の国民からの合意がないまま海洋放出することがないよう求める。
2. 当面地上保管を継続し、その間に国が責任をもって世界の英知を結集し、トリチウムの分離や放射能低減など根本的解決を図ることを求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年 月 日